

第1学年3組 音楽科学習指導案

指導者 木内 美彩

展開場所 音楽室

1 題材名 「構成を工夫してテーマに合ったリズム曲をつくろう」(5時間)

教材名 表現(創作) 「くいしんぼうのラップ」 作・構成 和田 崇

【本題材で扱う学習指導要領の内容】

A表現(3)創作 ア、イ(イ)、ウ

〔共通事項〕(1)ア、イ

・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

リズム 構成

2 題材について

(1) 題材の目標

- 言葉のリズムや音の重なり方、反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に合った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- リズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。(思考力、判断力、表現力等)
- 言葉のリズムや曲の構成を生かしてグループで音楽をつくることに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 題材設定の理由

本題材は、表したいイメージと関わらせながら、音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴を理解するとともに、それらを生かした創作表現を創意工夫してリズム曲をつくることをねらいとしている。

中学校に入学して3ヶ月経った。夏休み明けからは校内合唱コンクール「やまぶき祭」に向けての取り組みが本格的に始まる。小学校から合唱に親しみ、歌う楽しさを知っている生徒たちに、夏休み明けからの合唱では、自分たちで音楽をつくり上げる喜びを味わわせたいと考えている。そのためには、音楽を形づくっている要素とその働きを理解し、それらを生かして自分の思いや意図を表現する経験が必要だと感じている。創作の学習では、音楽をつくる過程の中で音楽を形づくっている要素やその働きに触れ、それらを整理していくことで既に学習していることをより深く理解したり、自分の思いや意図を表現するために必要な新しい知識や技能を習得したり活用したりすることができる。また、生徒が自己の内面に生じたイメージを表現するための手段として音楽を形づくっている要素やその働きを生か

すことができ、音楽の原理や構造を学ぶのに有意義な活動である。

本題材では、音楽を形づくっている要素のうち、リズムと構成を重点的に取り上げる。リズムは言葉のもつリズムと関わらせて拍をとらえたり、創作の際にリズムのつながりを考えたりする。構成は「くいしんぼうのラップ」を分析し、反復、変化、対照や“一人ずつ”“くり返し+一人ずつ”“同時に”と言葉の重なりが厚みを増す構成とその働きを学ぶことで創作表現に生かす。また、表したいテーマを表現する手段として、音色や強弱、速度など、その他の音楽を形づくっている要素とその働きについても、適宜創作表現の中で学ぶことができると考える。

(3) 生徒の実態

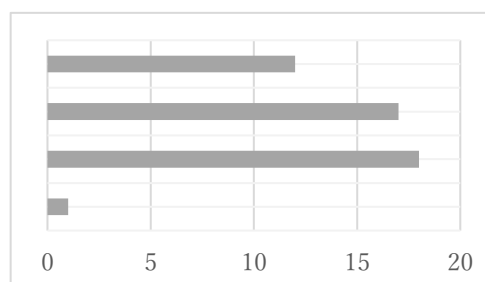
本学級は素直な生徒が多く、授業や学校生活に前向きに取り組んでいる。32名のうち30名は西志津小学校出身で、生徒同士も活発にコミュニケーションをとることができる。学級全体の前で手を挙げて意見を発表する生徒は少ないが、グループでの話し合いでは自分の意見を伝え合いながら話し合うことができる。

小学校では、4分音符や8分音符、付点など簡単な音符や休符を組み合わせて手拍子で表現したり、リズム譜に強弱を工夫して表現したりする活動に取り組んできた。また、ゆっくり、速いなど速度の働きが生み出す楽しさを感じ取りながら打楽器で演奏する活動に取り組んだり、作ったリズムを友達のリズムとつなげ方や重ね方を工夫してリズムアンサンブルを楽しんだりした。構成については、鑑賞で「はじめ-なか-おわり」や「A-B-A形式」等の曲の構成、「カノン形式」について学習してきた。また、歌唱で起承転結という構成を意識して表現する活動を行った。中学校入学時のアンケートでも、合唱や楽器演奏など中学校の音楽科の授業に意欲をもっている生徒が多かった。

本題材の指導にあたって行った実態調査の結果は以下の通りである。(1年3組32名)

1. 音楽科で好きな活動は何ですか？(複数選択可)

1. 歌うこと(12名・38%)
2. 楽器を演奏すること(17名・53%)
3. 鑑賞すること(18名・56%)
4. 音楽をつくること(1名・3%)



2. 音楽をつくってみたいですか？理由も教えてください。

1. そう思う(4名・13%)

ポカロをつくりたい。自分が思っていることを曲にのせられるし、つくった曲をきいてくれて良い曲だなと思ってくれたら嬉しいから。

2. 少しそう思う(12名・38%)

工夫したりするのが楽しそう。少しだけ楽しそうだと思ったから。カッコいい音楽をつくってみたいから。作詞をしたりするのが楽しそうだと思うから。音楽をつくるのは楽しそうだし、自分を表現できておもしろそうだけど、あまり得意じゃないから。友達とつくるんだったらやってみたいと思うから。

つくってみたいとは思っているが、楽譜などが難しくてできるか心配だから。







3. あまりそう思わない(11名・34%)

音楽をつくるのは難しそうで、自分にできるかわからないから。音符などがあまりわからないから。きくのは好きだけど、つくるのは苦手だから。

4. そう思わない(5名・16%)

難しそうだし、時間がかかりそうだから。面倒だから。

3. 4分の4拍子のとき、次の音符や休符の長さを答えなさい。()は正答率

- | | | |
|--|--|---|
| 1.  (15名・47%) | 2.  (2名・6%) | 3.  (7名・22%) |
| 4.  (8名・25%) | 5.  (3名・9%) | 6.  (4名・13%) |

4. 次の言葉のリズムとして1番ふさわしいものを、下のア～エから選んで答えなさい。

()は正答率

- ア.  イ.  ウ.  エ. 

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. ラーメン <ア> (31名・97%) | 2. ステーキ <イ> (22名・69%) |
| 3. サイダー <エ> (18名・56%) | 4. やきそば <ウ> (30名・94%) |
| 5. ドーナツ <ア> (28名・88%) | |

楽譜を読んだり書いたりすることや音楽をつくることへの苦手意識を持っている生徒は多いが、半数の生徒が「音楽をつくってみたいですか?」という質問に、“そう思う”または“少しそう思う”と答えている。友達とつくることや自分がつくった音楽を聴いてもらうことを楽しそうだと答える生徒もいた。音符や休符の長さは正答率が低い、「リズム探し」(同じリズムになる単語を探す活動)に取り組んだこともあってか言葉とリズムを結びつけることは正答率が高かった。指導の際には、読譜の指導や記譜をしなくてもよいとすることで、生徒の苦手意識を取り除きたい。また、創作の過程で聴き合う場面を多く設定して、自分がつくった音楽を聴いてもらったり友達がつくった音楽を聴いたりすることで主体的に創作の活動に取り組めるようにしたい。

(4) 指導観

本題材では、言葉のリズムを生かした3パートの16小節のリズム曲を5～6人のグループで創作し、演奏する。そのために、第1時で「くいしんぼうのラップ」を演奏し、創作のモデルとする。「くいしんぼうのラップ」は、3パートの声によるリズムアンサンブル曲である。**A**は“ラーメン→ラーメン→おなががすいた”と1パートずつ順番にリズムをつなげる、**B**は“おなががすいた”のくり返しの上に“おそば→うどん”のかけ合いが重なった後“みそラーメン”とユニゾンになり、**C**は“ラーメン”と“サイダー”と“たべたいのみたいおなががすいた”を同時にくり返す、という構成を楽しめる楽曲である。**D**は“ステーキひこうき食べられない”と落ちがあり、最後は“いただきまーす”とストーリー性も

感じられる。曲全体を通して、言葉の重なりがだんだん厚みを増して複雑になり、最後はそろって終わることでユニゾンの効果も体感できる。

グループでの創作表現では、「朝ねぼうのラップ」「元気な体育祭のラップ」のようにテーマを決め、テーマに合う単語を挙げて、並べ方や重ね方を試行錯誤しながらまとまりのある音楽にしていく。その際、「くいしんぼうのラップ」の“一人ずつ”“くり返し+一人ずつ”“同時に”をどのような順番で配置すると自分たちの思いや意図を表現できる構成になるかを考えたり、「くいしんぼうのラップ」の[D]のように“しかけ”の部分を入れて聴いている人を笑わせたり驚かせたりする工夫をしたりしながら、楽しく創作の活動に取り組ませたい。その後、第5時の発表会に向けて、創作した音楽の構成や表現を工夫して自分たちの思いや意図がより伝わる演奏にするために、4小節ごとの音楽のまとまりの順序を入れ替えてよりよい構成を考えたり、強弱や速度変化をつけたり、声の音色を変えたりなど、テーマがより伝わる工夫をすると、オリジナリティーのある音楽になり、生徒も楽しんで活動できると考える。生徒の思考の流れをワークシートや掲示物で整理しながら、「こう表現したい」という思いや意図を「くいしんぼうのラップ」の学習で学んだ方法を用いて表現を工夫できるようにしたり、自分の思いや意図を明確にしたりできるようにしたい。本題材での“ラップ”は、「くいしんぼうのラップ」のようにリズムによって歌うものとして扱い、韻を踏むことは必須としない。

また、創作の際には、最初に決めたテーマを音にしていくだけでなく、即興的に音を出しながら様々な音のつながり方を試す中でイメージが喚起されたり、音を出しながらくり返し表現を試し、その音を聴くことによってイメージが変化したり発展したりするものを経験しながら、創作表現を創意工夫する楽しさや喜びを実感させたい。さらに、創作の過程で他のグループの演奏を聴く機会を設定し、他のグループの表現も参考にしながら創意工夫できるようにしていきたい。また、コロナ禍で音楽活動に制限のある生活を送ってきた生徒たちに、リズムによって楽しく堂々と友達の前で演奏する表現力を育てる機会にしたい。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 言葉のリズムについて、自分が表したい言葉と関わらせて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に合った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。</p>	<p>思① 自分たちのつくった音楽のリズムや構成などの特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>思② 他のグループのつくった音楽のリズムや構成などの特徴</p>	<p>態 言葉のリズムやグループで音楽をつくることに興味を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

	<p>を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさを味わって聴いている。</p>	
--	---	--

4 指導と評価の計画（5時間）（本時4/5時間）

次	時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素〕	○教師の発問や働きかけ ・目指す生徒の姿	評価の観点 <評価方法>		
				知・技	思	態
第一次	第1時	◎言葉のリズムを楽しみながら、「くいしんぼうのラップ」を演奏する。				
		<p>○言葉のリズムに関心をもつ。 ・教師が演奏する手拍子のリズムを聞き、教師の後にくり返す。 ・教師が手拍子で演奏したリズムがどんな言葉に聞こえるか考える。 ☆〔リズム〕</p> <p>○音符の名前とその長さを理解する。 ・音符日本昔話を聞き、全音符、2分音符、4分音符、8分音符の名前と音の長さを理解する。</p>	<p>○楽しく学習する雰囲気をつくるとともに、リズムへの関心を高める。</p> <p>○“♪♪”“♪♪♪”などのリズムを手拍子で演奏し、どんな言葉に聞こえたか問いかける。以前取り組んだ「リズム探し」の活動を思い出しながら、音楽だけでなく普段話している言葉にもリズムがあることに気づき、本時の学習への意欲をもつ。</p> <p>○紙芝居で音符日本昔話を聞き、音符や休符について理解する。 ○それぞれの音符の形と名前、長さをカードで示し、理解しやすくする。 ○同じ長さの音符と休符をペアにして理解する。</p>			

・全休符、2分休符、4分休符、8分休符についても確認する。

○「くいしんぼうのラップ」を演奏する。


・曲の中に出てくる“♪♪”
“♪♪”“♪♪♪♪”“♪♪♪”
のリズムをカードで確認する。

・学級全体を3つのパートに分け、それぞれのパートを教師に続いて歌いながら練習する。

☆〔リズム〕

○「くいしんぼうのラップ」の表現の工夫を考える。

・この曲の特徴を考える。

・の部分をもとめたり、したりしたときの音楽の感じを話し合う。

・強弱の変化や速度変化をつけたときの音楽の感じをワークシートに記入する。

○カードの言葉を手拍子でたたきながら確認する。

○リズムによって楽しく演奏できるようにする。

○言葉のリズムが聴き取りやすいようにはっきり発音するように声をかける。

○表現の工夫について、強弱や速度など生徒の意見を全員で試してみる。

○「この曲の中でおもしろいところはどこでしょうか？」


・でずっとくり返すところ。

○「のように、同じリズムを何度もくり返すとどんな感じがしますか？」

・気持ちが高まる。

・だんだん強くしたくなる。

→全員で  で演奏する。

○「今のように  で演奏するとどんな感じがしますか？」

・せまってくる感じがする。

・怒っている感じがする。

○「では、 すると、どんな感じがしますか？」

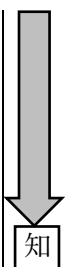
・眠い感じ。

・悲しい感じ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ C の部分を rit.して演奏する。 ・ C の部分を accel.して演奏する。 ・ C の後、一度止まって演奏する。 ○ 試した表現の工夫から生徒が気に入ったものを選び、全員で「くいしんぼうのラップ」を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「速度変化をつけてみたらどうなるでしょうか？まず、rit.してみたら、どんな感じがしますか？」 ・ 眠くなる。 ・ やる気がなくなる感じがする。 ○ 「では、accel.したらどんな感じがしますか？」 ・ 急いでいる感じがする。 ・ 走っていくような感じがする。 ○ 「一度止まって演奏したらどんな感じがしますか？」 ・ はっとする。 ・ 次に何があるのか楽しみになる。 						
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「くいしんぼうのラップ」の構成を理解し、創作するラップのテーマをグループで決める。 							
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の雰囲気をつくる。 ・ 「くいしんぼうのラップ」を演奏する。 ○ 「くいしんぼうのラップ」の全体の構成を理解する。 ・ A B C D それぞれの細かな構成を分析する。 ☆ [構成] 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しく学習する雰囲気をつくるとともに、前時の学習活動を復習する。 ○ 「この曲のおもしろいところはどこだったでしょうか？」 ・ C でずっとくり返すところ。 ○ 生徒の意見を拡大楽譜に書きこんでいく。(以下同様) ○ 「では、A はどんな音楽でしょうか？」 ・ 一人ずつ順番に言う。 ・ くり返しになっている。 ・ 音符が少ない。 						

- これからグループで創作する音楽のテーマを決める。
- ・「くいしんぼうのラップ」のような曲を自分たちでつくることを知る。
- ・グループでテーマを決める。

- 「**B**はどんな音楽になっているでしょうか？」
 - ・音符が増える
 - ・“おそば”と“うどん”のかけ合い。
 - ・“おなかがすいたー”のくり返し。
 - ・ずれている。
- 「**B**はずっとずれているでしょうか？」
 - ・“みそラーメン”と“チャーシューメン”は一緒になる。
- 「ずれていたものが一緒になると、どんな感じがしますか？」
 - ・すっきりする。
 - ・安心する。
- 「**D**はどんな音楽でしょうか？」
 - ・順番に言って、ずれて言って、最後はそろろう。
- 曲の終わりは全てのパートがそろっていることを確認する。
- 「そろって終わるとどんな感じがしますか？」
 - ・気持ちいい。
 - ・終わった感じがする。
- 他の終わり方（「かえるの合唱」の輪唱のように、だんだん人数が減って終わるなど）もあることを確認する。
- 「くいしんぼうのラップ」のように、5～6人グループで言葉のリズムを生かした音楽をつくることを伝える。
- 「朝ねぼうのラップ」「元気な体育祭のラップ」などのテーマを挙げて、グループでのテーマ決めの参考にする。

		<p>○テーマに合った言葉を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで決めたテーマに沿った3～4文字の単語を個人でワークシートに書き出す。 ・たくさん書き出せた生徒はそれぞれの言葉のリズムをワークシートに記入する。 	<p>○これから創作する音楽のイメージをもちやすいように、「どんな○○？」などと問いかけながらイメージを具体化する。</p> <p>○テーマに沿った単語を書き出している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「朝ねぼうのラップ」 “めざまし”“6時”“ねむい” ・「元気な体育祭のラップ」 “速いぞ”“1位”“頑張れ” <p>○言葉が全く思いつかない生徒には、「リズム探し」で生徒が見つけた言葉をまとめたものを見せ、その中からテーマに合った言葉を選ぶようにする。</p> <p>○「くいしんぼうのラップ」の“ラーメン”“サイダー”“おそば”“ステーキ”のリズムカードを掲示し、同じリズムの言葉を選べるようにする。</p>	 知 〈ワークシートの記述〉		
第二次	第3時	<p>◎グループで大まかな構成を考え、16小節のラップを創作する。</p> <p>○学習の雰囲気をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「くいしんぼうのラップ」を演奏する。 <p>○グループでの創作について知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・16小節の曲 ・自分たちで演奏できる ・3パートの曲 ・まとまりのある音楽にする </div> <p>○グループで曲の大まかな構成を考え、音楽をつくる。</p>	<p>○楽しく学習する雰囲気をつくるとともに、前時の学習活動を復習する。</p> <p>○創作の条件を確認する。</p> <p>○まとまりのある音楽にするには、くり返したり変化をつけたりするとよいことを伝える。</p>			

- ・4小節ごとを目安に、“一人ずつ”“くり返し+一人ずつ”“同時に”の部分をもとの順番で配置するか考え、曲の大まかな構成を決める。

☆〔構成〕

- ・個人で書き出した単語やリズムをグループで共有する。
- ・大まかな構成をもとに、テーマに合った言葉を付箋に記入したものを模造紙の楽譜に貼りながら、創作する。
- ・パートごとに付箋の色を変える。(ピンク、黄色、水色)

○ラップを創作したところまで発表する。

- ・演奏を始めるときは、リーダーの「1・2・1・はい」の合図で始める。
- ・それぞれのグループの曲や演奏について、よかったところを話し合う。

○ラップを最後まで創作する。

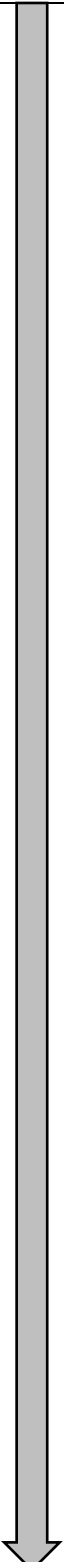
○構成を悩んでいるグループには、「くいしんぼうのラップ」の学習をふり返らせ、参考にしながら一緒に考える。

○1拍(2分音符)分のリズムを1枚の付箋に書き、それを貼りながら楽譜にしていく。

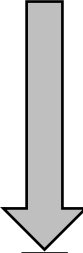
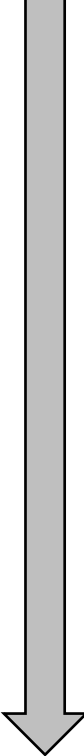
○音楽をつくるときは、声を出して試しながらつくとよいと声をかけ、試行錯誤しながら創作できるようにする。

○創作がまったく進まないグループがある場合には、活動が進んでいるグループの演奏を聴いたり楽譜を見せたりして、他のグループの参考にするようアドバイスする。

○それぞれのグループの演奏を聴いて「どう感じたか」や「どこがよかったか」を問いかける。リズムや言葉の重ね方を工夫しているグループの曲は、学級全体で演奏して工夫の効果を体感する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表で聴いた他のグループの演奏を参考にしながらラップを最後まで創作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループを回りながら、言葉のリズムを確認したり一緒に演奏したりしながら、最後まで創作できるようにアドバイスする。 			
<p>第4時 (本時)</p>	<p>◎テーマが伝わるように、グループで構成や表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の雰囲気をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「くいしんぼうのラップ」を演奏する。 ○グループで前時の復習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに前時につくったラップを演奏する。 ○グループでテーマが伝わるように構成や表現を工夫する。 <p>☆〔構成〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作の条件を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・16小節の曲 ・自分たちで演奏できる ・3パートの曲 ・まとまりのある音楽にする ・テーマが伝わるように構成や表現を工夫する </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで構成や表現を工夫する。 ・強弱や速度などの工夫は緑の付箋に書いて模造紙の楽譜に貼る。 ・構成の工夫のために4小節ごとの音楽のまとまりの順序を入れ替えるときは、楽譜をはさみで切って入れ替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しく学習する雰囲気をつくるとともに、今までの学習活動を復習する。 ○創作の条件に「テーマが伝わるように、構成や表現を工夫する」を加え、表現の工夫にはどんなものがあるか例を挙げる。(速度・強弱・構成など) ○グループを回りながら、強弱や速度を効果的に工夫しているグループには全体の前で演奏してもらい、他のグループが参考にできるようにする。 ○時間があれば、よい工夫をしているグループの曲を学級全体で演奏して、工夫の効果を体感する。 			

	<p>○次時の発表に向けて練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに次時の発表に向けて練習をする。 	<p>○どうしたらそのイメージが聴いている人に伝わるか考え、強弱や速度、構成などを工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だんだんせまってくる感じにするためにクレッシェンドする。 ・曲の最初に一体感を出すために、ユニゾンの部分を1段目にする。 <p>○グループを回り、工夫したことが伝わりやすい演奏になるようにアドバイスする。</p>		<p>思 ① 〈観察〉</p>	
<p>第5時</p>	<p>◎自分たちのラップを工夫が伝わるように発表し、題材のまとめを行う。</p> <p>○グループで発表の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに前時につくったラップを練習する。 <p>・ミライシードのオクリンクで、つくったラップの楽譜(模造紙)を4小節ずつ写真に撮って、カードに貼り提出BOXへ送る。</p> <p>○グループでつくったラップを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーがタイトルと工夫したところを言葉で発表した後、つくったラップをグループ全員で演奏する。 	<p>○自分のグループの音楽の特徴や工夫は何なのか問いかけ、その特徴や工夫が伝わるような演奏をするように声をかける。</p> <p>○ラップが完成していないグループがある場合には、創作や練習の時間をとる。</p> <p>○各グループを回って工夫の内容や演奏の様子を確認し、この後の発表順を意図的に決める。</p> <p>○写真を撮ったりカードを送ったりする操作の手順を掲示して、全体に説明する。</p> <p>○自分の担当パートを正しく演奏している。</p> <p>○演奏するグループの楽譜をモニターに映し、工夫したところを楽譜で示しながら確認する。</p>	<p>技 〈演奏の聴取〉</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの発表を聴いて、よいと思った工夫はワークシートにメモしておく。 ○本題材の学習を繰り返る。 ・発表のふり返りをグループごとに行う。 ・発表会をふり返って、自分が工夫したことや他のグループの工夫でよいと思ったものをワークシートに記入する。 ・「くいしんぼうのラップ」を演奏したり音楽をついたりする活動の中で、リズムや構成について学んだことや今後の活動に生かしたいことを個人でふり返り、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表を聴くときは、各グループの工夫に注目して聴くように声をかける。 ○工夫が伝わる発表ができたかふり返る。 ○自分が工夫したことや他のグループの工夫のよさについて、根拠をもって自分の言葉でワークシートに記入している。 ・クレッシェンドが聴いている人にも伝わるように演奏した。 ・ユニゾンで終わると聴いていて気持ちよかった。 ○ワークシートに本題材のふり返りを書いている。 ・自分たちで音楽をついたりするのは難しかったが、完成すると達成感があった。 ・強弱が聴いている人にも伝わるためには、自分で思っているより大きめにやらなければならないとわかったので、合唱のときも意識したい。 ○ワークシートにふり返りが記入できない生徒には、一緒に本題材の学習を繰り返り、どんなことを学んだり感じたりしたのか問いかける。 		 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">思</div> ② 〈ワークシートの記述〉	 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">態</div> 〈観察・ワークシートの記述〉
--	--	---	--	---	---

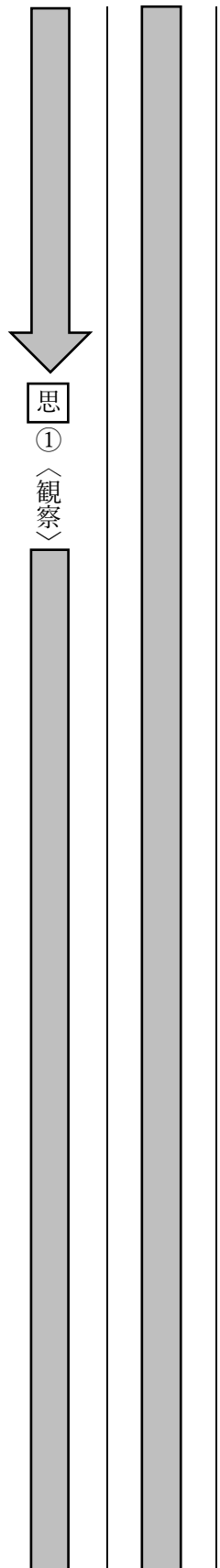
5 本時の指導（4/5）

（1）本時の目標

テーマが伝わるように、グループで構成や表現を工夫する。

(2) 本時の展開

時配	○学習内容 ・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素〕	○教師の発問や働きかけ ・目指す（予想される）生徒の姿	評価の場面 ＜評価方法＞		
			知・技	思	態
3分	○学習の雰囲気をつくる。 ・「くいしんぼうのラップ」を演奏する。	○楽しく学習する雰囲気をつくる とともに、今までの学習活動を復習する。			
5分	○グループで前時の復習をする。 ・グループごとに前時につくったラップを演奏する。				
5分	○本時のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">テーマが伝わるように、グループで構成や表現を工夫しよう！</div>				
35分	○グループでテーマが伝わるように構成や表現を工夫する。 ☆〔構成〕 ・創作の条件を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 16 小節の曲 ・ 自分たちで演奏できる ・ 3 パートの曲 ・ まとまりのある音楽にする ・ テーマが伝わるように構成や表現を工夫する </div>	○創作の条件に「テーマが伝わるように、構成や表現を工夫する」を加える。 ○構成や表現の工夫にはどんなものがあるか考える。 「表現の工夫にはどんなものがありますか？」 ・速度を変える。 ・強弱をつける。 ・声の音色を変える。 「では、構成の工夫にはどんな方法がありますか？」 ・くり返す部分をつくる。 ・4小節ごとのまとまりの順番を入れ替える。 ○考えた工夫は声に出して試しながら創作するように声をかける。			
	・グループで構成や表現を工夫する。				

2分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時と同様、パートの色の付箋（1：ピンク、2：黄色、3：水色）に言葉を書いたものを模造紙の楽譜に貼っていく。 ・休符が入る場合には、休符と言葉を付箋に書く。（おそば、みそラーメンなど） ・強弱や速度などの工夫は緑色の付箋に書いて模造紙の楽譜に貼る。 ・構成の工夫のために4小節ごとの音楽のまとまりの順序を入れ替えるときは、楽譜をはさみで切って入れ替える。 <p>○次時の発表に向けて練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに次時の発表に向けて練習をする。 <p>○次回の学習を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は練習をした後、タブレットで楽譜を撮影し、全グループの演奏をきく発表会を行うことを確認する。 	<p>○どうしたらテーマ（ラップのタイトルや伝えたいこと）が聴いている人に伝わるか考え、強弱や速度、構成、声の音色などを工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だんだんせまってくる感じにするためにクレッシェンドする。 ・曲の最初に一体感を出すために、ユニソンの部分を1段目にする。 <p>○グループを回りながら、強弱や速度を効果的に工夫しているグループには全体の前で演奏してもらい、他のグループが参考にできるようにする。</p> <p>○時間があれば、よい工夫をしているグループの曲を学級全体で演奏して、工夫の効果を体感する。</p> <p>○グループを回り、工夫したことが伝わりやすい演奏になるようにアドバイスする。</p>	
----	--	---	--

(3) 板書計画

学習課題	グループで構成や表現を工夫しながら、 テーマが伝わるようなラップを完成させよう！	
創作の条件	創作に使用する楽譜 (空の状態のもの) ※演奏するグループのテク スチュアを示すために使う	「くいしんぼうのラップ」 の楽譜 (第2時での生徒の意見を 書きこんだもの)